

(日置郡金峰町大野)

位置と環境

本遺跡は、諏訪協遺跡から続く南側に緩やかに傾斜する部分に立地する。西側は尾根上の台地で、東側はやはり緩やかに傾斜している。

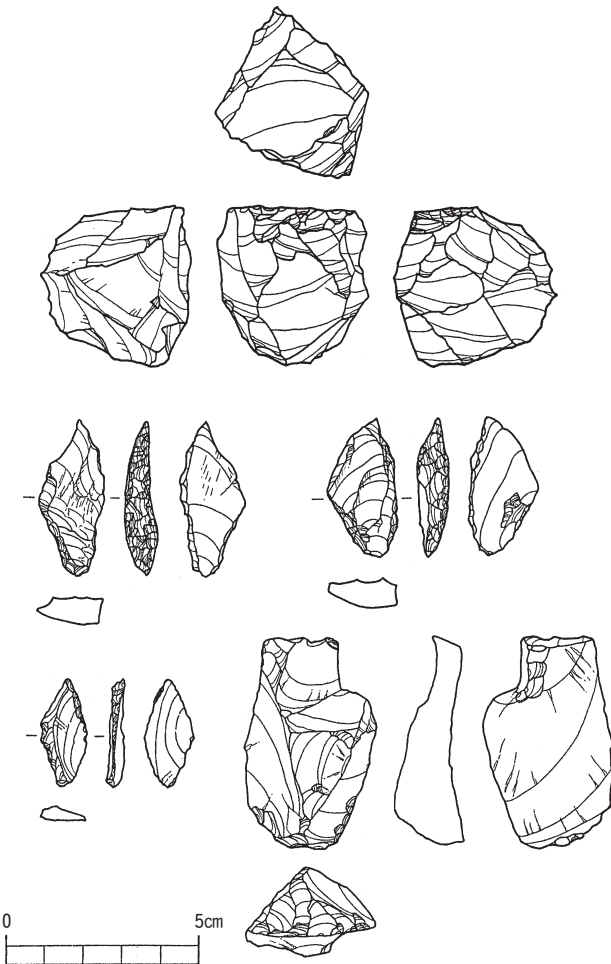
調査の経緯

本遺跡は、平成12・14年度に本調査を実施した。平成12年度は幹線道路部分、平成14年度は畑地部分の調査であった。

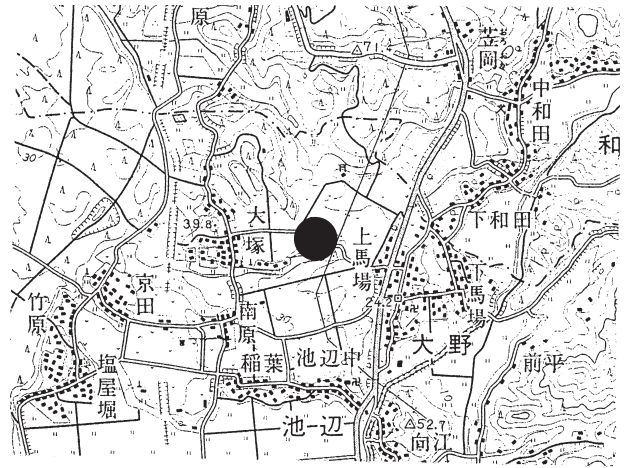
遺構と遺物

平成12年度は、調査区の南端でシラス二次堆積層とその上の粘土層の境界付近から旧石器時代ナイフ形石器文化期、調査区の北半でアカホヤ二次堆積層の上面から縄文時代晩期の遺構・遺物が出土した。

ナイフ形石器文化期では玉髓、チャート、頁岩製



第2図 旧石器時代石器実測図



第1図 宗円堀遺跡の位置

の二側縁加工ナイフ形石器、スクレイパー、コアや砂岩製のハンマーが出土した。また、玉髓と頁岩のブロックも2か所で発見された。石器製作技術の復元が期待できる資料である。

縄文時代晩期では、柱穴列3基の検出と入佐式土器、石鏃などの遺物が出土した。柱穴列は、同じ農業開発総合センター遺跡群の諏訪前遺跡や諏訪協遺跡などで多数発見されている遺構で、その用途や機能が注目されるものである。また宗円堀遺跡の調査により、この台地における縄文時代晩期の活動領域がより広範にあることも判明した。

平成14年度は、旧石器時代ナイフ形石器文化期のブロック3基及び細石刃文化期のブロック1基を検出した。遺物は、ナイフ形石器・三稜尖頭器・槍先形尖頭器、細石核・細石刃などが出土した。

礫群に関しては、全部で5基検出したがどちらの時期に属するかは不明である。

縄文時代早期は集石遺構が数基検出された。遺物は、縄文時代早期前葉～中葉にかけての時期である前平式土器・吉田式土器・石坂式土器などの土器や石鏃や凹石などの石器が出土している。

縄文時代晩期は、柱穴列5列と遺物集中域が検出された。柱穴列については建物の可能性が考えられている。遺物集中区については上加世田式土器がほとんどであった。

そのほかに、溝1条が検出された。時期については不明であるが、中世以降が考えられる。

(横手浩二郎)